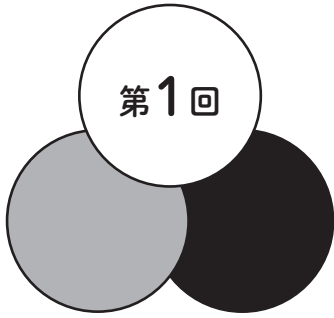


[新連載]

牛呼吸器病症候群(BRDC)で困る農場をなくすために



BRDC 対策の 最前線を目指して BRDC Frontiers 始動!

監修 石川真悟

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 獣医学専攻,
BRDC Frontiers 座長

BRDC 対策の最前線を目指して BRDC Frontiers 始動!

石川真悟 (上掲)



BRDC Frontiers とは

BRDC Frontiers は、全国各地の獣医師や研究者らが集まった有志の研究会である。牛の現場の生産性を最大化するため、その名前が示す通り、牛呼吸器病症候群(Bovine Respiratory Disease Complex : BRDC)の対策について議論し、現場に関わる獣医師や生産現場の方々に役立つエビデンスを創出することを目的としている。

BRDC のコントロールは牛の生産性を向上させるために重要であり、最前線を切り拓く議論、活動を推進する枠組みを提供したいというゾエティス・ジャパン(株)協力のもと 2019 年 2 月に設立された。半年に 1 回ミーティングを開催し、これまで 4 回行った(新型コロナウイルス感染症の影響により 2020 年および 2021 年はオンライン開催)。

メンバーとしては、筆者が座長を務め、第一線の現場で活躍する若手を中心とし、ベテランの先生も含む以下の 14 名の BRDC 診療に精通した先生方である(敬称省略)。

石川真悟(上掲)、田口英司(南士別動物病院)、宮島吉範(南あかばね動物クリニック)、船倉 栄(南牛の病院)、壹岐佳浩(宮崎県農業共済組合)、吉田隆志(オホーツク農業共済組合)、中西勇貴(南中標津家畜健康センター)、叶 有斗(鹿児島県農業共済組合)、

山下祐輔(北海道中央農業共済組合)、上村涼子(宮崎大学)、是枝明博(兵庫県農業共済組合)、富永由香(カブト家畜病院)、奥 啓輔(株トータルハードマネージメントサービス)、五嶋祐介(岩手県中央家畜保健衛生所)

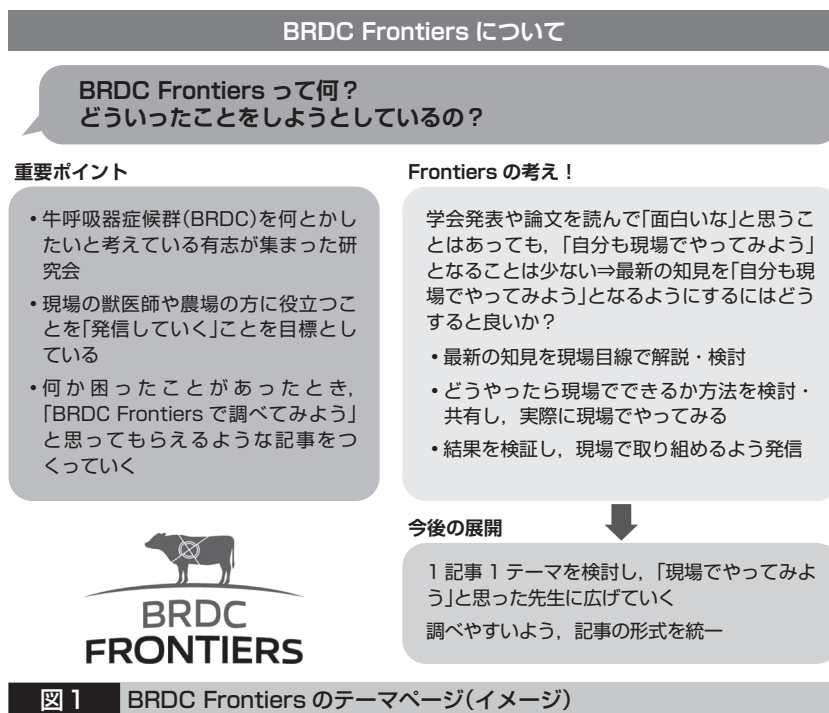
上記のメンバーでじっくりと時間をかけて議論し、「BRDC 対策のためにはどうすれば良いのか」と同時に、「どうやってこの対策を現場に広げていくか」について考え、以下のように進めていくこととした。

BRDC 対策の最新の知見を検討し、現場の先生が「自分も現場でやってみよう」となるように共有する

- ・学会発表や論文の紹介を見て、「面白いな」ということはあっても、「自分も現場でやってみよう」となることは少ない。
- ・「自分も現場でやってみよう」と思わせるためには、現場目線で検討し、解説することが必要ではないか?
- ・本研究会メンバーが実際に現場で実施し、どうやったら現場で広がるかという方法論から検討・共有していく。

何か困ったことがあれば「BRDC Frontiers で調べてみよう」と思ってもらえるような発信をしていく

- ・1 記事 1 テーマで、検討した項目について発信する。



・記事のつくり方・流れを「後から調べてみよう」と思ってもらえるよう、分かりやすい形に統一する。具体的には以下の①～③を実践する。

- ①時間がない方でも一目で分かるテーマページを作成する。
- ②最新の知見や論文情報の詳細な紹介を行う。
- ③現場目線(BRDC Frontiers 目線)での検討・解説を行っていく。

今後は1記事当たり1テーマで紹介していきたいと考えている。また、BRDC Frontiersとして今後何かしらの形で様々な情報発信をしていきたいと考えている。図1はBRDC Frontiersのテーマページ(①)のサンプルである。今後はこのテーマページを見かけたら、「BRDC Frontiersの記事だ」と思っていただければ幸いである。

さて、第1回の記事では、まずは敵を知ることからということで、マイコプラズマについて取り上げる。本研究会内で「おそらくマイコプラズマのせいでこの農場はコントロールが難しい」と感じるが、「そもそもマイコプラズマってどういう病原体だっけ?」となった経験があるという話題があがり、「マイコプラズマに

ついてもっと詳しく知りたい!」となった。そこで、第1回のミーティングでは、樋口豪紀先生(酪農学園大学)をお招きし、「牛マイコプラズマ症の病態」についてご講演いただいた。今回は②最新の知見の紹介として、樋口先生のご厚意により、その講演内容をまとめていただいた。マイコプラズマについてのテーマページ(①)と現場目線(BRDC Frontiers 目線)での検討・解説(③)については、次回に掲載する。

定期的に大学教員、家畜保健衛生所、臨床現場の獣医師が集まり、1つの問題について議論し解決を目指していくという取り組みは、おそらくこれまでにはなかったものと思われる。筆者自身が今後のBRDC Frontiersの展開についてワクワクしており、メンバー全員が将来的にBRDCで困る農場をなくすため、精一杯取り組んでいくので、今後の活動にご期待いただければ幸いである。

謝辞

樋口先生には、BRDC Frontiersの趣旨にご賛同いただき、講演および執筆と多くの支援を賜りましたことに改めて厚く御礼申し上げます。